# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース
第122号
2023年3月7日

## 年次総会概要決まる！

### 6月24日(土)・25日(日)に富士山麓で

シンポジウムテーマは「富士山と日本人　過去・現在そしてこれから」

基調講演に川勝平太・静岡県知事

見学会は人穴富士講遺跡、村山浅間神社、山宮浅間神社へ

霊山として日本人の心に深く刻まれている富士山。今年の年次総会は、そのおひざ元、富士山の頂上に奥宮を頂く富士山本宮浅間大社で開催する。見学会では古い富士信仰の姿をとどめる山宮浅間神社や富士講遺跡を訪ねる。

シンポジウムでは基調講演に川勝平太・静岡県知事を迎え、富士山がはぐくむ水環境について聞くほか、パネルディスカッションでは社叢学会ならではの自然科学、人文科学両面から富士山の多様な意味についての知見を深める。

山開きを前に、樹海の緑も深まる頃、改めて富士山を考え、実見できるまたとない2日間、奮ってご参加いただきたい。

申し込み方法等、詳細は次号に掲載する。

| 6月24日（土）：富士山本宮浅間大社（富士宮市） | | 6月25日（日）：見学会 | |
|---|---|---|---|
| 10:00～10:20 | 富士山本宮浅間大社正式参拝 | 10：00～11：00 | 富士山本宮浅間大社参拝 |
| 10:30～11:15 | 総会 | 11：00～12：00 | 静岡県富士山世界遺産センター見学 |
| 11:15～12:45 | 研究発表 | 12：30～13：20 | 昼食 |
| 13:45～17:30 | シンポジウム　「富士山と日本人　過去・現在そしてこれから」 | 13：30～16：30 | 人穴富士講遺跡、村山浅間神社、山宮浅間神社 |
| 18:00～19:00 | 懇親会 | 17：00 | 富士宮駅解散（JR身延線） |

## 神社新報連載が書籍に！

好評発売中！！

『鎮守の森の過去・現在・未来　そこが知りたい社叢学』

約1年に亘った神社新報掲載の連載が、1冊の書籍にまとまった。Ⅰ　社叢都神社が果たす役割、Ⅱ　社叢をどのように保全するか、Ⅲ　社叢と人のつながり、Ⅳ　都市における社叢の機能、Ⅴ　災害で社叢が果たした役割　の5章からなり、各分野での第一人者でもある当学会理事等が、様々な視点から社叢をわかりやすく論じている。

昨今、環境省でも特に生物多様性維持の側面から社叢の意義を認識し始めているが、こうした動きについても詳細に解説している。また、新聞掲載時にはモノクロだった写真も、一部は口絵ページにカラーで掲載され、目をも楽しませてくれる。

いずれも社叢を知るためには欠かすことのできない視点からの知識や情報が網羅され、社叢を知り、論じるためには必携の一書となっている。

（神社新報社刊　@1,400＋税）

第38回　中部定例研究会　報告

2023年2月6日
（於　熱田神宮）

# 熱田神宮の社叢

開催挨拶：多賀　顕(熱田神宮権宮司)
説　　明：高橋　守(同禰宜・総務部長兼営繕部長)
安田治男(同営繕部林苑課長)・寺本匡寛(同林苑課嘱託)

今回の賛助会員神社社叢紹介は、熱田神宮の社叢を、中部定例研究会報告を兼ねて、紹介する。

熱田神宮は、三種の神器の1つ草薙神剣の鎮座に始まり、以来、伊勢神宮につぐ神社として崇敬を集めている。約6万坪の境内には、樹齢千年を越える大楠が枝を伸ばし、大都会の一角に緑のオアシスを提供している。2004年には第3回年次総会の会場として、また05年の愛・地球博の当学会の出展・運営の拠点として、多大なご協力を頂いている。

巨樹が林立する境内

## 熱田神宮

名古屋市南部の熱田台地の南端に鎮座する。古くは伊勢湾に突出した岬上に位置していたが、周辺の干拓が進んだ現在はその面影は見られない。日本武尊が神剣を今の名古屋市緑区大高町火上山に置いたまま褒野で亡くなった後、妃の宮簀媛命が熱田に祀ったことに始まり、中世以降、国家的な崇敬を受けた。

所在地：愛知県名古屋市熱田区神宮1丁目1-1
祭　神：熱田大神(あつたのおおかみ)：草薙剣を神体とする天照大神を指す
相殿神：天照大神・素盞嗚尊・日本武尊・宮簀媛命・建稲種命

熱田神宮会館で集合の後、正式参拝・本宮周囲を巡る「こころの小径」を散策した。神宮会館での多賀 顕・熱田神宮権宮司による挨拶、高橋守禰宜(総務部長兼営繕部長)による熱田神宮社叢の説明の後、安田治男営繕部林苑課長と寺本匡寛営繕部林苑課嘱託に参道の林縁管理及び外周公共道面大枝剪定作業の現地説明を聞きながら、外周を巡った。

**本宮周囲を巡る「こころの小径」を散策**　本殿左脇(西)から神楽殿右脇(東)に抜ける「こころの小径」を小久保祭務部長・横地総務課長のご案内で歩いた。神宮北部はムクノキの優占度が大きくクスノキが次いで優占する植生になっているが、ほとんど手入れを受けない森になっており、1959(昭和34)年の伊勢湾台風時に壊滅的な被害を受けた後に、鳥類による種子散布等によって植生が再生した。

境内の最奥に位置する「一之御前神社」の祭神は熱田大神の「荒魂」で、昔は神宮関係者のみが「本殿の脇を通る参道」から行けた神聖な場所で、2012（平成24）年から一般参拝が可能になった。本殿裏の雲見山に1939(昭和14)年に陸軍が防空壕として造成した地下神殿入口があり、立入り禁止であるが2009(平成21)年の造営の際にも遷座所となった。本殿東にある清水社の裏には泉がありパワースポットとなっており、泉水を楊貴妃の墓石に３度かけて祈願すると目や肌が綺麗になると言われている。近年、清水社のパワースポットが脚光を浴びるにつれて、樹齢200年の大楠が御神木として崇敬を集めるようになった。

**熱田神宮社叢について**　熱田神宮境内（飛地境内含む）には本宮の他、別宮、12摂社、31末社が祀られており、現在の社殿は創祀千九百年記念事業として2009（平成21）年に造営した。古くから不老長生の憧れの理想郷としての信仰から「蓬莱島」と称され、現在も市民の心のオアシスとして親しまれている。なお、名古屋城は京から東海道を下ると熱田神宮の左に見えることか

多賀権宮司の挨拶

ら「蓬左城」とも呼ばれる。神苑面積は約19万㎡で、クスノキ・ケヤキ・カシ・シイ・ムクノキ・イチョウ・クロガネモチノキ等広葉樹が多く、特にクスノキは樹齢千年前後と推定される巨木が数本ある。クスノキは全国には幹回り24mという大木もあるが、蒲生八幡神社（鹿児島県姶良郡）の大楠が日本一で、の来宮（きのみや）神社（静岡県熱海市）の大楠が第二位で、その迫力には圧倒される。熱田の大楠は全国50位にも入らないが、1972（昭和47）年に市民の人気投票でクスノキが「名古屋市の木」に決まった。

拝殿石段上の右側にクロガネモチノキの大木があるが、1989（平成元）年にクロガネモチノキが「熱田区の木」に制定され、1929（昭和4）年の調査では境内に11本が確認され、現在は７株と枯れ２株が残っている。本宮及び摂社境内には名古屋市の保存樹が27本指定されており、クスノキの他にケヤキ・イチョウ・ムクノキなどがある。熱田神宮は常緑広葉樹の杜と言われるが、1891（明治24）年の境内鳥瞰図にはマツ・スギの針葉樹も確認でき、鬱蒼とした森は境内北側に集中しており、南側には民家が描かれている。江戸時代前の享禄古図（1529）にはスギ・マツ・笹も描かれており、室町時代の古図にはマツ・竹・笹も描かれており、時代によって杜も変化してきた。1893（明治26）年に社殿が尾張造りから神明造りに改造されて後、1919（大正８）年に境内拡張整備が大々的に行われ、大正から昭和初期にかけて植樹が進められた。

1922（大正11）年12月にアインシュタインが参拝しており、「アインシュタイン日記」には高床式の社殿を見て「大きな森の中にある優雅で質素な南方から来たと思われる独特の屋根の突起物がある魂が宿る木造建築」と記している。1926（昭和元）年には境内3haに3万7,000本が植栽されて、1935（昭和10）年に改造後最初の遷宮があり、その当時の記録からも鬱蒼とした森が想像できる。

その後、杜の一大危機である戦争に入り、1945（昭和20）年には名古屋市は63回の空襲を受け、熱田神宮も3月12日に境内の約9割が焼失して、職員による懸命の消火活動にも拘らず、大木を十数本失った記録がある。数年前に文化殿の玄関横に被災した樹齢約200年のケヤキが見つかり、展示している。5月14日には名古屋城が炎上、16日夜に、勅使を迎えて遷座祭を行い、秘かに御神体を本殿裏の地下神殿に遷座した。それから数時間後の17日朝、約200機のB29爆撃機による空襲で、神楽殿や鎮皇門（旧国宝=現在の西門の位置にあった）等の建造物の大半が焼失、本殿も被災したため解体された。周辺には日本車両や愛知時計などの軍需工場もあり、6月9日には熱田空襲で集中的に狙われ、10分間に121発の1t爆弾が投下され約4,000人が死傷した。

敗戦後、多くの人々が社殿の復興を望み、1949（昭和24）年に造営会が発足して全国から多くの浄財が寄せられた。1954（昭和29）年に伊勢神宮内宮正殿の譲渡が決定し、翌年11月に戦後初の遷宮が行われた。

その後、1959（昭和34）年に、最低気圧895hPa・最大風速75m/s・死者行方不明者数5,000人以上という、明治以降の日本における台風災害史上最悪の惨事となった伊勢湾台風に襲われ、社叢のほとんどの樹木がなぎ倒された。

神社にとって森がいかに大切かを示すエピソードがある。戦後、引揚げ船で続々と兵士が帰還する中、新聞にある投書が載せられた。そこには、自分が生まれ育った名古屋はもう無くなってしまったと悲しい気持ちで下船すると、目の前に熱田の杜が現れ、元気を取り戻すことができた。ここに名古屋があったのだと。このように、熱田の杜を見て、これからこの国を復興しなければならないと誓った人が沢山いた。杜は人々に勇気を与えるという話で、熱田の杜が心の拠り所とならねばならないと思った。

古い時代はスギやマツが境内の中心で針葉樹がかなり混ざっていたが、現在ではだいぶ変わってきた。信長塀の川向こうは社家町になっており、1893（明治26）年に当時の宮司が伊勢神宮風に神明造りに変えた時に、社家町を廃して森作りをしたという。改造前の様子は明治前期の鳥瞰図にも描かれている。

**参道の林縁管理及び外周公共道面大枝剪定作業**　神宮会館から旧参道を通り文化殿左前で、大戦中の空襲で焼け残ったケヤキを見学。樹皮にはシダの仲間のノキシノブが張り付いて旺盛な生命力を示していた。その後、正門である南門に行き、大戦中の爆弾の破片が食い込んだ穴のある鳥居を見て、平成30年度から令和４年度にかけて施業されている道路や民有地境界での大枝剪定（強剪定）に関する外周公共道面大枝剪定作業の経過を見学した。大枝剪定は、毎年11月に熱田神宮から伊勢神宮まで8区間106.8ｋｍで争われる全日本大学駅伝の出発点である熱田神宮西門から北へ時計回りで行われ、藤井・海老澤ら（2021）『街路樹は問いかける温暖化に負けない〈緑〉のインフラ』（岩波書店）を参考に、以下の４項目を目的として行われている。

①落枝・倒木事故の防止（沿道に張り出した大枝の除去・剪定作業は毎年行えないため、周期的間隔で安全を確保できる施業とする）、②危険枝の発見・除去、③幹や根際の腐朽や開口空洞の発見、④将来的に樹木を枯死させる可能性が高い、キヅタなどのつる植物の根際からの切断。その他、枯れ枝の処理・不要枝の処理・張り出した大枝の処理・見せる化剪定など８項目の大枝剪定（強剪定）位置の方針、切り残し・太い枝や幹の切断・薬物塗布など４項目の剪定方法・切り口の処置が決められている。

大枝剪定の前後

## OECM　30by30アライアンス
## WGにご参加ください！

前号でお伝えした通り、本学会は環境省が主導するOECM(保護地域以外で生物多様性の保全に資する地域：Other Effective area-based Conservation Measures)「30by30アライアンス」に参加している。21年のG7サミットで約束した、2030年までに我が国の陸と海の少なくとも30％を保全・保護する目標(30by30)を達成するために、環境省などでは社叢をOECMとして認証し、生物多様性維持に資する地域にするための仕組みづくりに取り掛かっている。

当学会では、予てより環境省の検討会議などに参加している森本幸裕副理事長を中心に、ワーキンググループ(WG)を結成し、協力のあり方などを検討している。

神社本庁でも、社叢がOECMに認証されることに関心を寄せていたが、環境省から当学会との協力を示唆され、近く担当者が京都事務局を訪れ、櫻井理事長、森本副理事長などとの検討の場を持つことにしている。

当学会としても、これまでに蓄積してきた社叢調査結果や社叢インストラクターの知見などを活かし、より効果的に施策を進めるための提案などを行っていきたいと考えている。

会員各位におかれても、ご興味・ご関心のある向きにはぜひ、このWGにご参加いただき、有意なご意見をお寄せ頂きたい。また、危機に瀕する社叢や、問題を抱える社叢の情報なども、ぜひ頂きたい。参加ご希望の節は、Mail(shsou@ams.odn.ne.jp)にて社叢学会事務局へ。

なお、30by30事務局からのお知らせやニューズレターなどは、社叢学会のHP(http://www.shasou.org/)からご覧いただける。

## 事務局から

- 新型コロナ感染症も５月にはいよいよ季節性インフルエンザなどと同じ感染症に分類されることになりました。とはいえ、新型コロナ感染症がなくなるわけではありません。社叢学会では定例研究会などを対面で実施して参りますが、適切な対策を講じることは不可欠です。会員の皆さま方におかれましても、ご配慮の上、ご参加いただきますようお願いいたします。

- ６月の富士山大会の会場をお借りする富士山本宮浅間大社は、目の前にどんと富士山が鎮座する素晴らしい場所にあります。先日、下見をさせていただいた日には、まさに霊峰といった姿を観ることができました。準備もほぼ整い、あとは当日の晴れを祈るばかりです。

  当日は、川勝平太・静岡県知事を基調講演にお招きし、環境、歴史、自然など多面的な富士山を議論する場となると存じます。５類になったとはいえ、新型コロナ感染予防にには万全を期して参ります。参加各位におかれましても責任ある行動を、よろしくお願いいたします。

  皆さま方におかれましては、予防専一に、ご自愛くださいますよう、お願いいたします。

- 会誌『社叢学研究』第21号を同封いたしました。手に取られて、「変わった！」と思われたのではないでしょうか？　今号からは編集委員会を再編し、岡村穣理事(委員長)、原正利理事、賀来宏和理事が査読のあり方や体裁などの検討を重ねた上で、出来上がりました。

  今後とも、より良い、そして読みやすいい会誌を目指して改良を重ねてまいりたいと存じます。内容や体裁など、忌憚のないご意見、ご感想を頂ければありがたく存じます。

  今号は、久しぶりに総会シンポジウム記録が復活するなど、充実したものになりました。また、会員の皆さま方からの活動報告や社叢訪問など、楽しい内容も満載です。ぜひ、ご一読ください。

## 編集後記

富士山ってさ、新幹線から見えるんだけれど、そのあたりを通る時には上りであろうが、下りであろうが、爆睡ちう。こんなにしみじみ、しかもこんなに近くで見たことないような。。。それにしてもでかいわ！　朝には山頂に笠雲がかかっていたけれど、お昼前には見事に吹き払われ、くっきりはっきり見事な姿。いやいや美しい。で、大発見(って、常識か?)！ 富士山の頂上って、よくイラストに描いてあるような平らではないのだよ！　北斎さん、すごい！

で、会誌『社叢学研究』。早く進めようと思って、いつもより2ヶ月くらい早くに修正を頼むも結局、いつもと同じどころか、いつもより遅れたって、どゆこと？　忘れてた！と白状(?!)する人、し～～らん顔して何度目かの催促によーやく重～～～い腰を上げる人、相変わらずですがね。でも、今年は3月の関西定例研究会がないので(というか、やるつもりだったのが、諸般の事情で…)、少し遅れてもまぁええかと、今一つ戦意(!?)がわかなんだ。。。いやいやトシのせいでマルなったんちゃうん？　(藤岡　郁)

発行人　社叢学会事務局　〒604-8115　京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL・FAX 075-212-2973
URL　http://www.shasou.org　E-Mail　shasou@ams.odn.ne.jp
facebook　https://www.facebook.com/shasou
社叢学会関東支部　〒368-0041　秩父市番場町1－1　秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032　E-Mail　shasougakkai@hotmail.com